



# ふろくで撮りました。 奈良撮影旅行記

しまおまほ  
×  
ホンマタカシ



漫画家のしまおまほさんと、  
写真家のホンマタカシさんが奈良・大和路へ小旅行。  
ピンホールカメラ片手に街を行きつつ、  
まほちゃんは「む、むずかしい〜」とうなり、  
ホンマさんは淡々と撮り続ける。  
さてさて、どんな写真が上がるのやら。

文／木内昇 写真／ホンマタカシ  
ピンホール写真 ステレオ／しまおまほ パノラマ／ホンマタカシ





## 「なにこれ、おもしろーい」

地面に置いたり、木の上から狙ったり。じっくり時間をかけて撮った

ピンホールで撮るのにふさわしい場所？ 自然がいいのか、古い街並みがいいか、それとも都市がいいのか。さんざ悩んだ挙げ句、目的地はすべての要素がある古都・奈良に決まった。

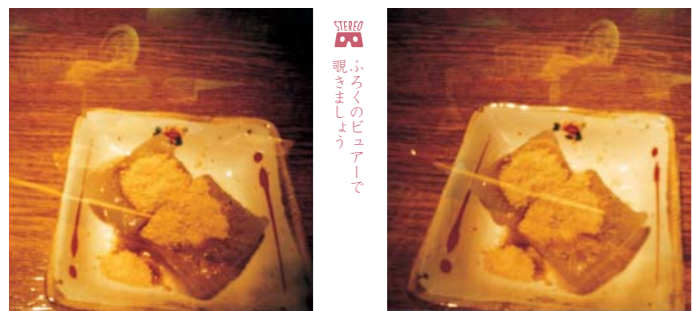
ホンマさん、まほちゃんともに、奈良に来るのは中学の修学旅行以来。「でもそのときのこと、俺、なんにも覚えてないな」とホンマさん。名物の茶粥をすすって一息入れたふたり。「ああ、眠くなってきた」「ところで晩飯はなに食う?」。早くも目的をお忘れのようだが、今回ふたり

## 「やるなあ、まほちゃん」

写真には、「よくある」ものが、思いがけない形で写っていたのだ!!

の旅には、ふろくのピンホールカメラで街を撮影するという使命があるのだ。ピンホールカメラ自体はじめて、というまほちゃんはステレオ担当に、何度かピンホールカメラを手作りしたことがある、というホンマさんはパノラマ担当、さらにライカでまほちゃんをねらうことに。

では、いざ街へ。ふたりは奈良公園に向かってのんびり歩き出した。三条通りに入ると、それぞれに被写体を見つけて撮影に入った。日向だったら4秒程度、でも日陰なら30秒は待たないといけない。ファインダーの範囲が正確ではないし、レンズがないので露光時間が長く、



記念すべき1枚目の写真は、フィルムの巻き忘れて二重露光の人影が。



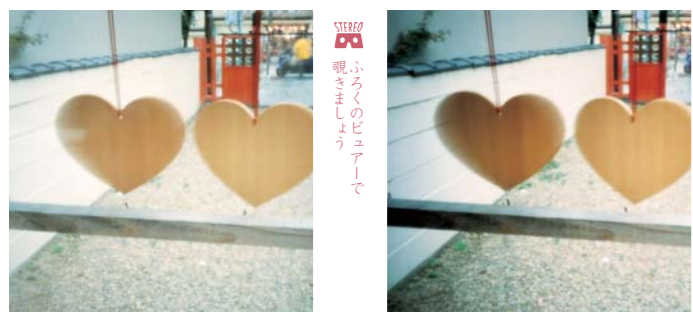
三条通りの沿道の木々は突然変異を遂げていた (!?)。



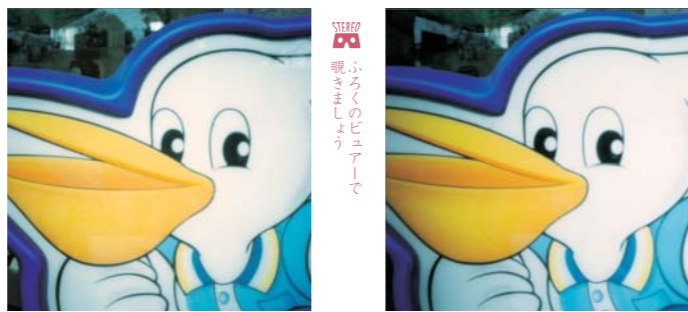
奈良公園でつろぐ鹿。「これはちょっとねらい過ぎちゃったな」。



古い街のかわいい店先。カラフルなみやげもののリアルな立体感にびっくり。



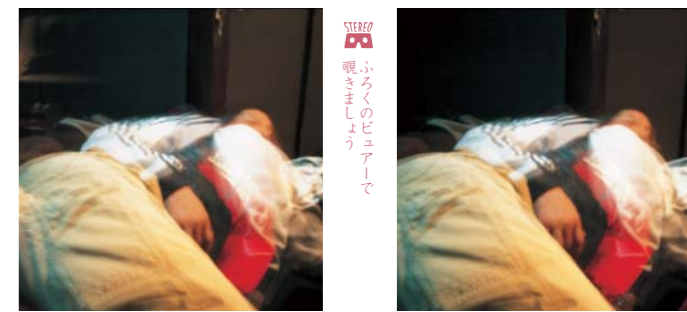
縁結びのお札。「何でもない写真でも飛び出すとおもしろいね〜」



お店の看板を撮ったものの、立体感薄。でも、バックの風景からは浮き出ている。



地面に目を向け低い姿勢で撮るのがまほ流。よって時にはこんなものも。



奥深き神秘を隠し持つ写真家、食後につろぐ、の囃。露光時間は、約2分。





ふろくのビューアーで  
覗きましょう



今回の上がりで一番驚いたのは光の美しさ。水面の効果もすばらしい！



ふろくのビューアーで  
覗きましょう



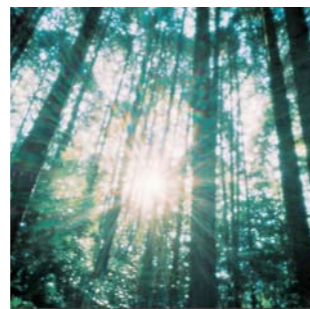
当尾の名所「笑い仏」。でも遠景だといまひとつ立体感が。



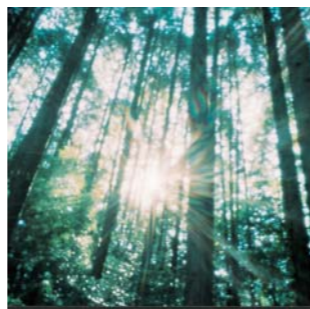
ふろくのビューアーで  
覗きましょう



驚くほど鮮やかな発色だが、近くで撮りすぎると立体視しにくい。



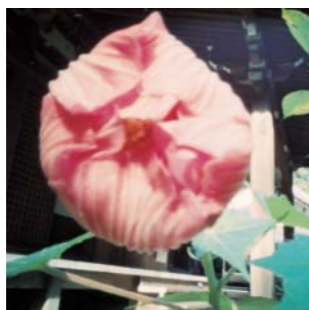
ふろくのビューアーで  
覗きましょう



当尾、岩船寺の竹林から空を眺むる。時間をかけて丁寧に写しとった光。



ふろくのビューアーで  
覗きましょう



花卉のしわなど、細かいところもきっちり出るのだ。



ふろくのビューアーで  
覗きましょう



形と色が最高！まほちゃんお気に入りの実。名前は不明。



ふろくのビューアーで  
覗きましょう



鹿に体当たりされた売店も記念に1枚。これくらいの距離がちょうどいいみたい。



ふろくのビューアーで  
覗きましょう



静止しているとききれいに写るが、動きがあると後ろの人影のようにブレる。面白い効果。

そのため三脚で固定しなければならない。フィルムを巻くのも手動。  
なかなか神経を使うカメラである。

「あ、またフィルム巻き忘れた!」。きりぎり舞いするまほちゃん、対するホンマさんはさすが慣れたもので淡々と撮っている。「ホンマさん、写真家っぽいことしてる。悔しい〜」。猿沢池の岩にとまった鶯、公園の鹿、縁結びのお札。被写体を低い位置から撮影していくまほちゃん。一方ホンマさんは、

そびえる木々とその向こうにある空を撮り続ける。パノラマを縦に使うて背の高い写真を撮っていくという作戦(?)である。

まず1本目を撮りきった段階で、とりあえず上がりを見ようと現像に。思いのほかきれいに写っているではないか!ステレオタイプの上がりを見よう。ふろくのビューアーで覗くと、「あ、ちゃんと浮き出て見える!」。遠景より近くを撮ったもののほうがより立体感が増すことも発見。「なんとなくわかってきました」。早くもコツをつかんだまほちゃん、2本目からはデジカメの露出を確認して、露光時間に換算するスタイルにも慣れ、地面に寝そべるようにしたり、高い樹の梢に手を伸ばして三脚を立てたりとアクロバティックに撮影をこなす。



「意識してねらいすぎると  
何だかダメみたい」まほ

**しまおまほ**  
漫画コラムニスト。1977年生まれ。東京都出身。多摩美術大学在学中の97年「女子高生ゴリコ」(扶桑社)でデビュー。著書に「タビリオン」(ブルース・インターアクションズ)、「ほんやり小町」(ソニー・マガジンス)、「しまおまほのひとりオリーブ調査隊」(プチグラパブリッシング)など。雑誌連載の他に、EXCITE公式ブログ「SHIMAOMAHO似顔絵4コマ劇場」を好評連載中。